

目的 第1報につづいて本報では民間分譲集合住宅居住者の住要求を具体的に分析することである。まずここでは住要求の範囲を「大なり小なり住空間に対しての要求充足の意識」つまり実際住機能が居住者の要求と合致しているかどうかという「必要」範囲と、もう一面を「希望・願望・欲望」を住空間の発展要求とする意識、すなわち希望する住意見を「欲望」範囲とする2側面から追究しようとするものである。なお前者は調査項目の「家庭生活からみた住みごこち」の項目形態・広さ・動線・アラウバシー・収納・住居内の環境設備等の諸機能に対する不快不便さらに主観的にみたその部屋の満足度を捉え、後者は「これからのすまいる」の項目で希望する形態の様式・形式・広さ・収納等の諸機能を明らかにする。方法 第1報に準ずる。

結果 今回の調査においての台所・浴室・便所等の換気設備を更に充実させる事、便所は外気に面した窓が必要。②台所では既存の[ガス台・作業台・槽式流し台]に作業台と配膳台を補充し、ゴミ処理の爲の設備を設ける事、形態はL及至Kの独立化によってLとKは分離する事。③夫婦寝室を充実させる為、和室にしてその融通性に頼り個室的要素が薄れるより洋室にして個室化するべき事。④リビングの範囲として堂の部屋を設け敷用融通性のある室とした和室。⑤各個室となりうる洋室はすでに衣服・収納家具類をつくりつけにする事。以上居住者の住生活と対応させた場合、改善の方法がある。したがって今後被調査者のような生活体系の居住者が集合住宅に対する住要求は3個室と予備室、Kが分離したただ人らんの形態の場合、これからの浴室・洗面・脱衣室、便所、収納空間、玄関等の住空間における機能室と現状のものをお互い肯定した上、これ等の諸機能が望まれるところである。